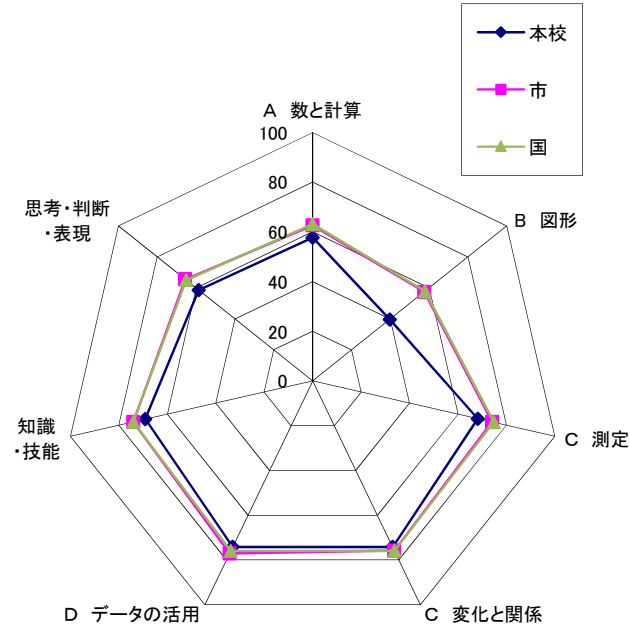


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.7	62.6	63.1
	B 図形	39.7	57.5	57.9
	C 測定	68.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	74.2	75.8	75.9
	D データの活用	74.2	77.1	76.0
観点	知識・技能	69.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	58.7	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題の正答率は79.1%で、他の問題と比較すると正答率が高い。 ●30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く問題の正答率は42.7%で、全国平均より8.8ポイント低い。	・小数や倍の数などの計算の理解が不十分のため、図を用いて視覚的に捉えさせる工夫をすることで、理由を説明できるようにする。 ・式の説明や計算の仕方を自分の言葉で説明できるよう、授業では自分の考えを伝え合う機会を増やすような学習形態を取り入れる。
B 図形	●三角形の面積を求める問題の正答率は29.1%で、全国平均より26ポイント低い。面積を求める公式は定着しているが、図形を見て底辺と高さを正しく捉えることができていない。	・三角形の面積についての基本的な問題に取り組ませながら、正しい底辺や高さを選択できるよう練習を重ねていく。また、さまざまな図形について、既習の公式を使って面積を求めることができることに気付かせ、応用問題にも取り組ませていく。
C 測定	○条件に合う時刻を求める問題では、正答率が89.1%で全国平均と同等であった。問題文を時間を掛けてよく読み、考えて解くことができている。 ●二つのコースの道のりの差の求め方と答えを記述する問題の正答率は56.4%で、全国平均より6.1ポイント低い。	・記述式の問題に苦手意識をもつ児童がいる。今後は、基本的な知識を活用して解く問題に取り組ませたり、どのように解いたのか説明したりする機会を増やしていく。
C 変化と関係	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題の正答率は88.2%で、全国平均を1.5ポイント上回っている。 ●速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題では、無回答率が他領域よりも目立つ。正答率は80.0%で全国平均と比べると5.1ポイント低い。	・道のりや速さ、時間の関係についてもう一度振り返り、朝の学習や授業のウォーミングアップなどの時間に練習問題を解くことで定着を図る。
D データの活用	○棒グラフを読み取ったり、データを表に整理したりする問題では、5問中3問の正答率が全国平均より0.7～1.5ポイント上回っている。 ●帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く問題の正答率は45.5%と、全国平均より6.5ポイント低い。	・割合の問題の定着が不十分であるので、「もとにする量」「くらべられる量」について丁寧に説明していく。 ・他教科でも円グラフや帯グラフなどから割合を読み取り、比較量を求める問題に触れさせ、定着を図るようにする。